

「利用者本位の建築デザイン」とはなにか 発達障害のある人々を支える建築デザイン

*2019 年 10 月 12 日開催予定でしたが、台風のため延期としました。

発達障害は近年、社会的に一定の理解が進み、その存在自体は広く認知されるようになってきています。2017 年に UOD 小委員会が編集・発刊した「利用者本位の建築デザイン」でも、いくつかの事例で発達障害を中心的なテーマとして扱っています。しかし、発達障害とはどのような状態で、建築環境に対してどのようなニーズが存在するのか、未だ理解が十分とは言えません。

本研究会では、発達障害と建築環境との関係について、またそもそも発達障害とはどのような状態で、どのようなニーズが存在するのか、あらためて議論します。まず本小委員会の幹事より、「利用者本位の建築デザイン」で取り上げた発達障害に関わる事例を振り返り、本研究会の主旨の説明を行います。引き続き、発達障害者支援の専門家より発達障害の状態について解説を頂き、加えて発達障害・知的障害のある子どものための住宅改修を多く手がける建築職の専門家より、発達障害のある人々のニーズとその建築的な解決策について具体的な事例を紹介頂きます。これらをもとに、発達障害のある人々が社会で暮らしてゆくために求められる環境について、研究会参加者とともに議論を行い、理解をさらに深め、社会的な理解を広げる一助としたいと考えています。

日時：2020 年 2 月 22 日 (土) 15:00～17:00
(受付 14:30～)

会場：建築会館会議室 (東京都港区芝 5-26-20)
(建築 CPD 申請中)

プログラム

15:00～15:05 趣旨説明：松田 雄二 (東京大学、司会)

15:05～16:20 講演

1. 発達障害のある人々を支援するための環境の進展
田中 賢 (日本大学)
2. 発達障害のある方の困りごとと支援
橋口 亜希子 (橋口 亜希子 個人事務所)
3. 発達障害・知的障害のある子どもたちの環境改善
西村 顕 (横浜市総合リハビリテーションセンター・一級建築士)

16:25～16:55 ディスカッション (講演者+司会)

16:55～17:00 まとめ：石橋 達勇 (北海学園大学)

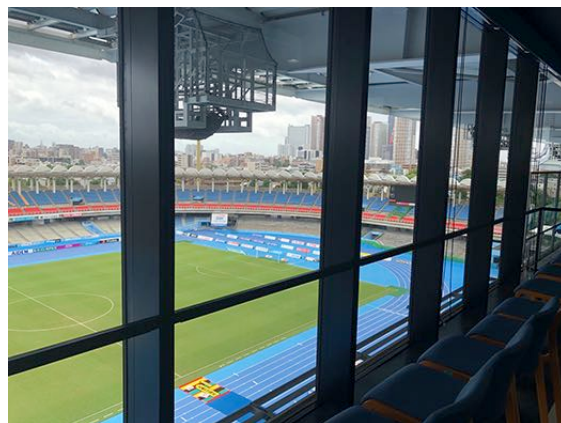
申込み

定員：40 名 (申込先着順)

参加費：1,000 円 (会員)、1,500 円 (会員外) 500 円 (学生)

E-mail にて催し物名称・氏名・ご所属・会員/会員外の別を明記し、下記までお申し込みください

松田 雄二 (東京大学) e-mail: matsuda@arch1.t.u-tokyo.ac.jp



等々力競技場に設けられた国内初の「センサリールーム」。感覚過敏の子どもでも、安心してサッカー観戦をすることができる。



発達障害のある子どもの中には、衝動的に室内を走り回ったり飛び跳ねたりすることがあり、騒音が問題になる場合がある。そのため、防音性能の高いマットを開発中。



大学の小教室を利用したカームダウン・クールダウン室の例。内部をパーテーションで簡易に仕切り、周囲からの視線をコントロールしている。

